

同志社女子大学音楽学科公開講座

ダンス・バロック！！

～フランスの舞曲から見たバッハの組曲～

バロック時代の舞曲を学ぶ時、バッハの作品を基準として考えることが多いと思います。けれども、バッハはフランスの踊りを手本として作曲しているのです。

「ダンス・バロック」とは、フランス語でバロック時代の踊りという意味。フランスでは、踊りが得意だった太陽王ルイ14世の時代に、舞踏会ばかりでなく、舞台での踊りが大きく発展します。皆で踊るダンスから皆に見せる踊りへと変化し、ステップやリズムも複雑になっていくのです。

このようなフランス舞踏音楽を知ることによって、バッハの組曲や舞曲にみられるドイツ人ならではの特徴も浮き彫りになってきます。この講演では「ダンス・バロック」、すなわち17・18世紀フランスの踊りや舞曲について、音楽やステップばかりでなく、当時の社会や宮廷と関連させながら紹介します。



関根 敏子 (せきね としこ)

音楽学、音楽評論家。桐朋学園大学音楽学部作曲理論学科(音楽学)卒業後、フランス政府給費留学生としてフランス国立パリ高等音楽院に学ぶ。またチェンバロをスコット・ロス、トン・コーブマン他に師事。桐朋学園大学・昭和音楽大学・早稲田大学・東洋大学などで講師を歴任。NHK-FM番組「古楽の楽しみ」担当。主要な著書：フランス古地図音楽散歩(『之潮』連載)、A.ヘリオット著『カストラートの世界』(共訳)、J.デ・グロケイオ著『音楽論』(共訳執筆)、T.アルボー著『オルケゾグラフィ』(共訳執筆)、『古楽演奏の現在』(監修執筆)、ジャン・ルソー著『ヴィオール概論』(共訳、付録解説)他多数。所属学会：日本音楽学会、音楽文献目録委員会(RILM、元事務局長)、国際音楽資料情報協会(IAML)、演奏表現学会(元理事)。

樋口 裕子 (ひぐち ゆうこ)

同志社女子大学芸学部音楽学科声楽専攻卒業。卒業後、オーストリア、イギリス、フランス、ポーランドにて著名な古典舞踏研究家のルネサンス・バロック・ポーランドダンスのレッスンを受ける。数多くの公演に出演し、日本各地でバロックダンス、ショパンのダンス、ルネサンスダンスなどをテーマに講習会や講座を行う。NHKBS番組「クラシック倶楽部」に出演。同志社女子大学嘱託講師、大阪音楽大学、関西学院大学、各非常勤講師。



〈Program〉

バッハ作曲 「メヌエット」「ガヴォット」
リュリ作曲 「サラバンド」「シャコンヌ」他
*内容は変更することがあります。

2025.10.15(水)

15:00(開場14:30)

場所:頌啓館ホール

入場料:無料(予約不要、途中入場・退場可)

～Access・お問い合わせ～

同志社女子大学京田辺キャンパス
〒610-0395 京都府京田辺市興戸南銚立97-1
(近鉄線「興戸」駅より徒歩10分、JR学研都市線
「同志社前」駅より徒歩3分(正門まで))
※駐車場はございませんので公共交通機関を
ご利用ください。

Tel:0774-65-8501(学芸学部音楽学科直通)
本学HP <https://www.dwc.doshisha.ac.jp/>

※文字通訳・手話通訳・場内誘導・座席の確保等について
特別な配慮をご希望の方は、原則として9月26日までにご希望の内容をお知らせください。
ご要望内容を検討のうえ、できる限りの対応を取らせていただきます。